

「勇気から希望へ」賞 入賞作品

「希望のバトン」

佐藤 麻理子

中2 東京都豊島区

ねえ、オレアちゃん。突然お兄さんが目の前で銃で殺され、お父さんが連れて行かれ、その上自分の家を追われてしまうなんて…。オレアちゃんのショックや心の傷、深さは、平和な国で暮らしている私には実感がないよ。簡単に「大変だったね。」とか「元気出して！」とか言っても、すべてがウソっぽく聞こえるだけだよ。言葉は便利だよ。でも、大切なのは“心”だよ。私にはオレアちゃんにかけてあげる言葉は見つからないけれど、オレアちゃんや家族、同じように国を追われた人々を“わかろうとする心”は持っているよ。そして、中学生の私一人では何も出来ないけど、事実を多くの人に伝え、ほんの少し勇気を出して感じたとおりに動く事で初めてオレアちゃんと正面から向き合えると思うの。

オレアちゃんの国だけでなく、世界では戦争が起こっているんだよ。新聞で、“内戦”“テロ”“地雷”の文字を目にすると、オレアちゃんと重なって、心が叫ぶんだ。

「戦争って何？戦争によって何か良い事が生まれるの？私には悲しみ、怒り、絶望感といったマイナス要因しか浮かばない。人が人を殺す、傷つける事はあってはならない。

心はどこにあるの？もし、銃を向けた先に自分の母親の顔があっても撃てるの？」

人という字はお互いが支えあって立っている。だって、そうでしょう。一人では決して生きては行けないものね。誰も人を殺すために尊い命を授かったのではないのだから。戦争って哀しい事だよ。

オレアちゃん、「パンドラの箱」って知ってる？昔は皆、平和に仲よく暮らしていたのに、パンドラの箱を開けてしまったために、「憎しみ、怒り、嫉妬……」など、悪の心が世界中に飛び出したんだって。でもねオレアちゃん、全部の悪が飛び出した後、箱の中には「希望」が残っていたんだよ。ねえ、オレアちゃん。大人達が開けてしまったパンドラの箱は元には戻せないけれど、私達が残された希望にはなれるんじゃないかな。困っていたオレアちゃん達に救いの手を伸ばした UNHCR は「難民」にとって、まさに「希望」だったと思うの。そうでしょう。オレアちゃんがこの国に来た事も、オレアちゃんの苦しみを伝える事で心を動かす人達がいる事も、皆、希望につながっていると思うの。だから私はいつでもその「希望」を信じているの。悪い事は続かないよ。だって、こうして元気なオレアちゃんに会えたんだもの。

オレアちゃんの心の傷は深すぎるけど、起こった事を忘れないで！私も忘れない。私はオレアちゃんと出会って自分の考え方が変わったよ。きっと私と同じように何かを感じて一歩踏み出す「勇気」を持つ人がいてくれるはずだから。ううん、いてほしい。

ほんのすこしの勇気から、世界が平和へと動いたら素晴らしいよね。オレアちゃん、私達で叶えていこうよ。きっと自信を持って次の世代に輝くバトンを手渡せる日が来るから。